

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■9月18日（月・祝）午前

会場	第1会場（南加記念ホール）	第2会場（グリーンホール）	第3会場（共通講義棟 A21）
	S1. 国際シンポジウム：東アジアの古生代古地理学	R23. 地球史	R15. テクトニクス（Tectonics）
	座長：1-2 ウォリス サイモン, 3-4 大路樹生, 5-7 ウィリアムズ マーク	座長：1-3 黒田潤一郎, 4-7 曾田勝仁 8-11 藤崎 渉	座長：1-6 宮川歩夢, 7-11 小林健太
8:45	8:45 S-O-1 (招待) The biogeographical significance of Silurian and Devonian trilobites of Japan: a comparison of different taxonomic groups and discussion of their individual ecological and lithofacies ranges. Chris P. Stocker* , Phil D. Lane, Derek J. Siveter, Gengo Tanaka, Mark Williams, Tatsuo Oji. Simon R. Wallis	8:45 R23-O-1 現代メコン川の炭酸系に基づくヒマラヤ水系の河川が炭素循環に与える影響の考察. * 川幡穂高 ・鈴木 淳・内田悦生	8:45 R15-O-1 応力場極性に基づく熊本地震の前震・本震の判定. * 新妻信明
	9:05 S-O-2 (招待) Japan's earliest ostracods. David J. Siveter* , Gengo Tanaka, Mark Williams	9:00 R23-O-2 太陽活動と地磁気が気候に影響を及ぼしたMIS 19間氷期. * 兵頭政幸 ・北場育子・上野友輔	9:00 R15-O-2 熊本県, 日奈久断層帯に沿った脆性剪断帯. * 小林健太 ・小柏景司
	9:25 S-O-3 (招待) Assembling the Korean Peninsula: From Rodinia to Pangea. Duck Choi*	9:15 R23-O-3 Return to the strangelove ocean: Status report of the IODP Expedition 364 "Chicxulub Impact Crater". * 山口耕生 ・後藤和久・富岡尚敬・佐藤峰南・池原 実・Joanna Morgan・Sean Gulick・IODP Expedition 364 Scientific Party	9:15 R15-O-3 活断層と後期更新世に活動を停止した断層における破砕帯の比較: 阿寺断層と奈良県中央構造線. * 大谷具幸 ・椿 純一・河野雅弘・上田圭一
	9:55 S-O-4 (招待) Paleozoic tectonostratigraphy and detrital zircon geochronology of the Korean Peninsula: Paleogeographic linkage to proto-Japanese arc. Moonsup Cho*	9:30 R23-O-4 南西太平洋ロードハウライズ掘削試料の白亜紀-古第三紀(旧成紀)境界層の層序. * 黒田潤一郎 ・斎藤実篤・白井洋一・萩野恭子・Hsiung Kan-Hsi・村山雅史・安藤卓人・大河内直彦	9:30 R15-O-4 岩石磁気学的手法を用いた活断層評価. 竹内真司・* 金丸龍夫 ・安江健一・廣内大助
	10:25 S-O-5 (招待) First chitinozoans (organic-walled microfossils) from the Silurian and Devonian of Japan. Thijs Vandenbroucke* , Mark Williams, Simon R. Wallis, Jules Velleman, Toshiyuki Kurihara, Gengo Tanaka, Toshifumi Komatsu, David J. Siveter, Olle Hints	9:45 R23-O-5 白亜紀海洋無酸素事変 OAE2 における年代モデルの樹立と古環境変動・LIPs との関係. * 西 弘嗣 ・高嶋礼詩	9:45 R15-O-5 (招待) ★ メソスケールの構造から推定される沈み込み帯巨大分岐断層沿いの応力, 間隙流体圧, 岩石強度. * 大坪 誠 ・Jeanne L. Hardebeck
	10:45 S-O-6 (招待) Palaeozoic intertidal and shallow-marine ostracods as useful biogeographical indices for the palaeogeographical evolution of Japan. Gengo Tanaka* , David J. Siveter, Mark Williams	10:00 R23-O-6 南東フランス, 白亜系海洋無酸素事変(OAE) 1a層準の黒色頁岩のケロジェン熱分解分析—海洋基礎生産の復元. 安藤卓人・* 沢田 健 ・高嶋礼詩・西 弘嗣	10:15 R15-O-6 南部フォッサマグナ, 富士川層群浜石岳層中の変形礫を用いた高弧衝突帯における応力変遷と地下構造の解明. * 鈴木 俊 ・小林健太
	11:05 S-O-7 (招待) Where did Paleozoic proto-Japan form?: A view from geochronology. Yukiyasu Tsutsumi*	10:15 R23-O-7 前期ジュラ紀トアルシアン期海洋無酸素事変時の超海洋中央部における炭素循環摂動と大規模火成活動の因果関係. * 藤崎 渉 ・上田修裕・須田好・佐藤友彦・松井洋平・澤木佑介・横山哲也	10:30 R15-O-7 飛騨地方の中新世岩脈群から得られた古地磁気方位の地質学的意味. * 杉崎雄一 ・星 博幸
		10:30 R23-O-8 西南日本に分布する中部三疊系チャートを対象にした古環境解析. * 曾田勝仁 ・尾上哲治・安川和孝	10:45 R15-O-8 西南日本の白亜紀以降の古地磁気極移動曲線. * 宇野康司 ・古川邦之・畠中友里
		10:45 R23-O-9 秩父帯層状チャート中に産する層状マンガン鉱床の形成過程: 放射虫化石年代と化学層序による検討. * 富松由希 ・尾上哲治	11:00 R15-O-9 花崗岩マイロナイトを利用した変形条件の推定および白亜紀東北日本の構造発達史についての考察. * 綿貫峻介 ・金井拓人・坂秀憲・高木秀雄
		11:00 R23-O-10 (招待) ★ 局所同位体比分析で地球地殻の形成史を探る. * 牛久保孝行 ・清水健二・飯塚 毅・上原啓幹・小宮 剛・谷健一郎・上野雄一郎	11:15 R15-O-10 ネパールヒマラヤの変成岩ナップのテクトニクスと被熱・冷却プロセス. * 酒井治孝 ・中嶋 徹・岩野英樹・檀原 徹
		11:30 R23-O-11 マリノアン氷河期後に見られるリン酸塩ストロマトライトの成因. * 白石史人 ・大西 咲・早坂康隆・高島千鶴・奥村知世・狩野彰宏	11:30 R15-O-11 ジルコンのフィッション・トラック年代測定によるネパールヒマラヤの変成岩ナップとその下盤・上盤の被熱・冷却プロセスの解明. * 中嶋 徹 ・酒井治孝・岩野英樹・檀原 徹

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), レギュラーセッション (R) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.

※太字氏名: 代表発表者. ★印: ハイライト (本誌 p. (12) を参照). (招待): 招待講演. (エントリー): 優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月18日（月・祝）午前

会場	第4会場（共通講義棟 A24）	第5会場（共通講義棟 A31）
	R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス 座長：1-3 齊藤哲, 4-6 新正裕尚	T9. 「泥火山」の新しい研究展開に向けて 座長：1-5 潮崎翔一, 総合討論 浅田美穂
8:45		
	10:15 R1-O-1 IODP EX350掘削コアには海底カルデラ生成のきっかけが残されている？ * 田村芳彦 ・シンドルベック ジュリー・ジュッラー マーティン・ニコルス アレックス・デバリ スーザン・宮崎 隆・佐藤智紀・前島丈明・石井輝秋・アンドリュウ グラハム・木戸ゆかり・山下幹也・ギル ジェイムス・バスビー キャシー・ブルーム ピーター	9:45 T9-O-1 「日本周辺の」泥火山を理解し利活用するための一提案. * 浅田美穂
	10:30 R1-O-2 東北日本弧南端部、日本海の拡大に伴うマグマ活動の変遷. * 清水隆一 ・川野良信	10:00 T9-O-2 (招待) ★ 海底地震津波観測網DONETによる熊野灘の泥火山シグナル検出に向けて. * 中野 優
	10:45 R1-O-3 四国西部の中新世火成岩類のU-Pbジルコン年代. * 新正裕尚 ・折橋裕二・角井朝昭	10:30 T9-O-3 世界の泥火山研究レビュー（無機化学編）. * 土岐知弘
	11:00 R1-O-4 中新世御内花崗岩質岩体に記録された地殻物質-マントル由来物質相互作用. 馬込宗孝・塩田恵美・* 齊藤 哲	10:45 T9-O-4 泥火山の微生物活動と生物地球化学過程. * 井尻 暁
	11:15 R1-O-5 西南日本内帯の白亜紀火成岩・変成岩の U-Pb年代の東西変化. * 中島 隆	11:00 T9-O-5 (招待) ★ 泥火山から採取した原油の希土類元素地球化学. * 中田亮一 ・早稲田周・奥村文章・高橋嘉夫
	11:30 R1-O-6 関東山地北縁部、四ッ又山石英閃緑岩に含まれる黒雲母片麻岩捕獲岩によるSタイプ花崗閃緑岩の生成. * 保科 裕	11:30 (総合討論)

■ MEMO ■

(27)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。(招待)：招待講演。(エントリー)：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月18日（月・祝）午前

会場	第7会場（共通講義棟 A41）
	R19. 環境地質
	座長：1-4 田村嘉之、5-8 風岡 修
8：45	
9：45	R19-O-1 東京湾北部の埋立地における層序と2011年東北地方太平洋沖地震時の液状化－流動化の層準：千葉市浜田川緑地での調査から。* 風岡 修 ・宇澤政見・檜山知代・潮崎翔一・香川 淳・吉田 剛・荻津 達・八武崎寿史・加藤晶子
10：00	R19-O-2 高品質サンプリングによる未固結堆積物の強度特性の向上について。* 末永仁良 ・橋本和佳
10：15	R19-O-3 観測井孔内地下水温が示す地質環境。* 香川 淳 ・古野邦雄・潮崎翔一
10：30	R19-O-4 江戸時代（1840年）に記録された新潟県佐渡島相川鉱山のじん肺について（その3）。* 仲川隆夫
10：45	R19-O-5 八雲風穴（鳥根県出雲市）における高濃度ラドンの検出と冷風穴内における氷形成の可能性。* 野村律夫 ・井上睦夫・小藤久毅
11：00	R19-O-6 2016年熊本地震における地下水ラドン濃度変化。* 川端調代 ・細野高啓・佐藤 努・高橋 浩
11：15	R19-O-7 2017年5月に測定した東京豊洲新市場と東京築地市場の空間放射線量について。* 檜井 久 ・木村和也・古野邦雄
11：30	R19-O-8 速い潮流下での浚渫窪地の平坦化は環境回復に有効か？* 秋元和實 ・矢北孝一・島崎英行・三納正美

会場	第8会場（共通講義棟 A45）
	R5. 地域地質・地域層序・年代層序
	座長：1-4 内野隆之、5-8 星 博幸、9-12 納谷友規
8：45	R5-O-1 粒子配向度を用いた秋田油田新第三系の圧密量の推定。* 西川 治
9：00	R5-O-2 足尾帯の中部三疊系珪質岩に貫入した堆積同時性玄武岩シル(1)：産状。* 佐野弘好 ・指田勝男・中江訓・上松佐知子・奥村よほ子
9：15	R5-O-3 足尾帯の中部三疊系珪質岩に貫入した堆積同時性玄武岩シル(2)：全岩化学組成から推定される起源。* 中江 訓 ・佐野弘好・指田勝男・上松佐知子・奥村よほ子
9：30	R5-O-4 銚子地域の御岳火山起源テフラの対比。* 中里裕臣 ・古澤 明
9：45	R5-O-5 日本の後期中生代花粉層序確立への試み－銚子層群から。* ルグラン ジュリアン ・山田敏弘・西田治文
10：00	R5-O-6 鮮新統安房層群安野層におけるマンモス逆磁極亜期の古地磁気記録。* 羽田裕貴 ・岡田 誠
10：15	R5-O-7 千葉県北部における中－上部更新統下総層群の地質構造。* 納谷友規 ・野々垣進・坂田健太郎・中里裕臣・吉田 剛・風岡 修・中澤 努
10：30	R5-O-8 下部－中部更新統境界GSSP候補地「千葉複合セクション」における松山－ブルン地磁気逆転記録。* 岡田 誠 ・羽田裕貴・菅沼悠介
10：45	R5-O-9 最古の太平洋プレート上に存在する南鳥島の地質学的意義。* 平野直人 ・河野尊臣・森下泰成・角野浩史
11：00	R5-O-10 神奈川県三浦半島に分布する田越川砂礫岩層の礫種の再検証。* 平田大二
11：15	R5-O-11 飛騨山脈における古水系とその変遷。* 原山 智
11：30	R5-O-12 志摩半島、鳥羽地域の中古生界の地質構造。* 内野隆之

■ MEMO ■

(28)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■9月18日（月・祝）午後

会場	第1会場（南加記念ホール）	第2会場（グリーンホール）	第3会場（共通講義棟 A21）
	T3. 変動帯日本列島内安定陸塊の探査	R23. 地球史	R15. テクトニクス（Tectonics）
	座長：1-4 乙藤洋一郎，5-7 鈴木茂之，8-10 総合討論 板谷徹丸	座長：12-14 三木 翼 15-17 青木翔吾 18-20 斎藤誠史，21-23 吉丸 慧	座長：12-15 山口飛鳥
14：30	<p>14：30 T3-O-1 変動帯日本列島内安定地塊の探査－概観－。*板谷徹丸・乙藤洋一郎・鈴木茂之</p> <p>14：45 T3-O-2★ 古第三系吉備層群の古流路復元から推測される吉備高原の長期安定性。*鈴木茂之・田中 元</p> <p>15：00 T3-O-3 古第三系吉備層群周匝層中の礫岩の岩石記載とK-Ar年代。*八木公史・曾根原崇文・郷津知太郎・鈴木茂之</p> <p>15：15 T3-O-4 西南日本，古第三紀神戸層群凝灰岩層の記載岩石学的性質。*谷保孝</p> <p>15：30 T3-O-5 有漢累層に代表される吉備高原の中新世の地層分布が示す地形発達史。*藤原貴生・鈴木茂之</p> <p>15：45 T3-O-6★ 吉備高原の準平原に関する地形学的な再検討。*柳田 誠</p> <p>16：00 T3-O-7（招待）★ 活断層分布と活動度からみた吉備高原の安定性。*松多信尚</p> <p>16：30 T3-O-8 MT法から見た中国地方・山陰地域における地下比抵抗構造。*塩崎一郎・山口 覚</p> <p>16：45 T3-O-9（招待） 地震波トモグラフィーから見た西南日本と吉備高原。*趙 大鵬</p> <p>17：15 T3-O-10★ 吉備高原は大陸から来たか。*乙藤洋一郎</p> <p>17：30（総合討論）</p>	<p>14：30 R23-O-12 大陸棚と大陸斜面深部のエディアカラ系～初期カンブリア系の有機窒素同位体比とC/N比の化学層序：海洋硝酸濃度とレッドフィールド比の経年変化。*小宮 剛</p> <p>14：45 R23-O-13 Significance of Proterozoic continental crustal fragments in evolution of the Central Asian orogenic belt。*Uyanga Bold・Yukio Isozaki・Francis Macdonald</p> <p>15：00 R23-O-14 古原生代，トランスハドソン変動帯に残される深海底堆積物についての層序復元：Flin Flon帯・Cape Smith帯の堆積層。*清川昌一・元村健人・Wouter Bleeker・Dave Price</p> <p>15：15 R23-O-15 炭素・硫黄同位体比を用いた19億年前の海洋環境推定：カナダ・フリンフロン帯。*元村健人・清川昌一・池原 実・田中健太郎・佐野有司</p> <p>15：30 R23-O-16 ガボンにおける前期原生代炭素同位体層序。*佐藤友彦・澤木佑介・斎藤誠史・松井洋平・丸山茂徳</p> <p>15：45 R23-O-17 前期原生代海洋中の亜鉛濃度上昇。*澤木佑介・佐藤友彦・丸山茂徳</p> <p>16：00 R23-O-18 ガーナ・ビリミアン帯における古原生代火山砕屑岩分布域の形成年代と堆積場の推定。*吉丸 慧・清川昌一・伊藤 孝・池原 実・佐野貴司・堀江憲路・竹原真美・Nyame Frank K.・Tetteh George M.</p> <p>16：15 R23-O-19 古原生代Hotazel Formationの縞状鉄鉱層およびマンガン堆積物の地質学・地球化学的研究から示唆される当時の海洋生命必須元素循環。*青木翔吾・坂田周平・大野 剛・小宮 剛</p> <p>16：30 R23-O-20（招待）★ 超大陸サイクルとマント内熱化学構造の相互関係：2次元マントル対流シミュレーションに基づく考察。*亀山真典・原田あかり</p> <p>17：00 R23-O-21 天体衝突による大気酸化仮説：後期太古代の地質記録による検証。*斎藤誠史・黒澤耕介・臼井洋一・奥村知世・尾上哲治・佐藤峰南・石田湧也・渋谷岳造・西澤 学・松井洋平・澤木佑介・佐藤友彦・上野雄一郎</p> <p>17：15 R23-O-22 ジンバブエ地塊，太古代シュルグウィ緑色岩体のジルコン年代測定と大陸形成史への制約。*沢田 輝・磯崎行雄・澤木佑介・坂田周平・藤崎渉・佐藤友彦・斎藤拓也・上田尚裕・丸山茂徳</p> <p>17：30 R23-O-23 世界最古の炭酸塩岩の地質学的産状と化学組成から推定する初期太古代の海洋中の生命必須金属元素濃度。*吉田 聡・石川 晃・小宮 剛</p>	<p>14：30 R15-O-12 P波浅層反射法地震探査からみた横手盆地東縁断層帯（南部）の地下構造。*木村治夫・青柳恭平・藤原 明・野田克也</p> <p>14：45 R15-O-13 背弧リフト系の構造に支配された北陸地域の活構造と地震発生様式。*石山達也・佐藤比呂志・加藤直子・越谷 信・松原 誠・阿部 進</p> <p>15：00 R15-O-14（招待）★ 西南日本の地震波減衰構造とスロー地震。－地震テクトニクス的な検討－ *北 佐枝子・松原 誠・澁谷拓郎</p> <p>15：30 R15-O-15 現在の日本列島のテクトニクスは～6 Maにはじまった？ *木村 学・辻 健・山口飛鳥・高下裕章</p>

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月18日（月・祝）午後

会場	第4会場（共通講義棟 A24）	第5会場（共通講義棟 A31）	第6会場（共通講義棟 A35）
	R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般	R20. 応用地質学一般およびノントラフィック構造	R10. 炭酸塩岩の起源と地球環境
	座長：1-4 宇野正起, 5-7 阿部なつ江	座長：1-3 西山賢一, 4-7 亀高正男	座長：1-3 山田 努, 4-6 牧野帆乃香, 7-10 加藤大和
14:30	14:30 R2-O-1 (招待) ★ 黒鉱鉱床の概要と変質帯の時空間分布. *山田亮一 15:00 R2-O-2★ 埼玉県寄居地域のヒスイ輝石石英岩中の流体包有物の化学組成とその特徴. *福山繭子・川本竜彦・小笠原正継 15:15 R2-O-3★ 岩石学分野におけるデータ駆動型解析の現状と展望. *桑谷 立 15:30 (休憩) 15:45 R2-O-4 海洋下部地殻最下部における弾性波速度逆転の可能性. *阿部なつ江 16:00 R2-O-5★ 最上部マントルのファブリックと化学組成～陸と海のかんらん岩の類似性と相異性～. *道林克禎・柿畑優季・大家翔馬・尾上彩佳・近藤洋裕 16:15 R2-O-6 野母変斑れい岩複合岩体および山鹿変斑れい岩体のジルコンU-Pb年齢と起原. *木村光佑・早坂康隆 16:30 R2-O-7 オマーンオフィオライトからの堇青石－直方（＝斜方）輝石岩の発見. *宮下純夫・金子 龍・足立佳子	14:30 R20-O-1★ 雪・氷・岩石なだれの地質学的特徴. *山崎新太郎・川口貴之・中村 大・川尻峻三・渡邊達也・山下聡 14:45 R20-O-2 (招待) ★ 阿蘇カルデラ内における熊本地震による表層崩壊. *奥野 充 15:15 R20-O-3 平成28年熊本地震震源域を対象としたSAR衛星の時系列的な干渉解析による斜面変動モニタリング. *三五大輔・小俣雅志・郡谷順英・谷口 薫 15:30 R20-O-4 空中写真判読・現地踏査および干渉SAR解析を用いた白山甚之助谷地すべりの構造について. *藤井幸泰・石塚師也・金子 誠・高橋 享・松岡俊文 15:45 R20-O-5 美濃山地のいくつかの地点に発達する山上凹地埋積堆積物の特徴. *小嶋 智・前村優仁・大谷具幸・永田秀尚 16:00 R20-O-6 長野盆地浅川扇状地における地震動－2014年長野県北西部地震で現れた強震地域－ *津金達郎・塩野敏昭・竹下欣宏・古本吉倫・信州大学震動調査グループ 16:15 R20-O-7 ボーリング資料に基づく徳島平野の地下地質. *西山賢一・丹野祥一・岡林真姫・山上陽平・中尾賢一・川村教一	14:30 R10-O-1 (招待) ★ カルスト・システム形成研究における最近の発展. *浦田健作 15:00 R10-O-2 トラバーチン組織における生物的・非生物的過程の相対的影響. *白石史人・江野友樹・中村有希・半澤勇作・朝田二郎・Bahniuk Anelize 15:15 R10-O-3★ 富山県黒部市・鋳ヶ岳から産出する白亜紀のトラバーチン. *久保貴志 15:30 R10-O-4 炭酸凝集同位体温度計の石筍及びトゥファ試料への適用. *加藤大和・雨川翔太・狩野彰宏・桑原義博・石橋純一郎 15:45 R10-O-5 小池の風穴（福島県南相馬市）の洞内気象と鍾乳石形成. *山田 努 16:00 R10-O-6 三重県霧穴の石筍酸素同位体が示す過去8万年間の気温変動. *狩野彰宏・森 大器・柏木健司 16:15 R10-O-7 沖縄県南大東島縁辺部に分布する大東層の堆積ユニットとドロマイト化作用. *松田博貴・持原光景 16:30 R10-O-8 カナダ, プリティッシュコロンビア州南部, Cache Creek Terraneのベルム系Marble Canyon石灰岩（中～上部Guadalupian）の岩相. *牧野帆乃香・佐野弘好・太田泰弘 16:45 R10-O-9 最下部カンブリア系の石灰質微生物類礁に見られる特徴的な下地形成－礁生態系進化の側面－. *江崎洋一・杉本雄祐・足立奈津子・刈 建波・渡部真人・Gundsambuu Altanshagai・Batkhuyag Enkhbaatar・Dorj Dorjnamjaa 17:00 R10-O-10 モンゴル西部ザブハン盆地に分布するTsagaan Oloom層で特徴的なストロマトライトの形成様式と海洋環境. *足立奈津子・江崎洋一・刈 建波・園田ひとみ・渡部真人・Gundsambuu Altanshagai・Batkhuyag Enkhbaatar・Dorj Dorjnamjaa

(30)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。(招待)：招待講演。(エントリー)：優秀ポスター賞エントリー講演

■ 9月18日（月・祝）午後

会場 ■ MEMO ■

14:30

(31)

第8会場（共通講義棟 A45）

R5. 地域地質・地域層序・年代層序

座長：13-17 菅森義晃, 18-22 桑原希世子

■ MEMO ■

14:30	R5-O-13	三重県に分布する一志層群上部の複合化石層序. *大信田彦磨・林 広樹・柳沢幸夫・栗原行人・星 博幸
14:45	R5-O-14	異なる年代の放散虫化石共存の謎－サバイバルか？再堆積か？－美濃帯ペルム系チャートの例. *桑原希世子・佐野弘好
15:00	R5-O-15	近畿三角地帯北部の運動像. *紺谷吉弘
15:15	R5-O-16	紀伊半島西部の「仏像構造線」（その1）：上部白亜系寺杣層に覆われる仏像衝上断層. *山北 聡
15:30	R5-O-17	ペルム系弱変形正常相堆積岩類の分布と特徴. *脇田浩二・伏見勇紀・田原幸太・鈴木茂之
15:45	R5-O-18	愛媛県中部の始新統ひわだ峠層の層序. *楠橋 直・安藤友一・松原尚志・奈良正和・栗田裕司・山路 敦
16:00	R5-O-19	四国西部の古第三系ひわだ峠層の貝類化石年代. *松原尚志・安藤友一・楠橋 直・山路 敦
16:15	R5-O-20	長崎県五島列島奈留島における五島層群の層序と地質構造. *金子大作・清川昌一
16:30	R5-O-21	2016年熊本地震で甚大な被害を受けた益城町市街地の地下に分布する火山性堆積物の層序と分布形態. *中澤 努・坂田健太郎・佐藤善輝・星住英夫・吉見雅行・ト部厚志
16:45	R5-O-22	琉球列島の花崗岩類のジルコンU-Pb年代とSr-Nd同位体組成. *小笠原正継・福山繭子

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (12) を参照）。（招待）：招待講演。（エントリー）：優秀ポスター賞エントリー講演